

「改革の年」 ～尊重を大切に、方向性を模索する年～

1. 職員の確保を図る

- ・今や人手不足は介護現場だけでなくサービス職種の喫緊課題である。特に、東信地区では介護人材の求人が全く動いていない状況にある。人材を確保していくため、法令を遵守し、働きやすく魅力のある職場づくりを進める必要がある。職員からのアンケート内容を反映させながら、気持ちよく働ける職場の雰囲気や人間関係、頑張った努力や成果が報われる人事制度などの整備が必要である。今年度は、施設運営の基本を成す人材の採用・育成・定着について最重点課題として取り組む。また、働き方改革が進む中で就業のルールについても見直しを図る。

2. 稼働率の達成と業務の効率化を図る

- ・入所 78.0 人、通所 23.0 人、居宅 55 件／月、あさがお満床を目標とする。
- ・無理に手は広げない。従来のやり方やチーム単位に拘らず、業務の見直しを図る。
 - ①提供するサービスの充実（利用者・家族の利用満足度向上、在宅を意識したケア）
 - ②病院・外部施設・ケアマネジャー等との連携
 - ③施設の特徴を打ち出す。（認知症対応・リハビリ施設・看取り機能）

3. 利便性の向上を図る

- ・しののめの里では、近年、夏場の猛暑に対応して家族や職員から居室にエアコン設置の要望が上がっていた。岐阜県での事件もあり、当施設としても夏場の暑さ対策が喫緊の課題との認識を持ち、今年度、全居室へのエアコン設置を実施したいと考える。また、施設利用者にとって最大の楽しみは食事である。栄養科からの長年の要望として、食事をさらにおいしく食べられるように温冷配膳車の導入を図りたい。施設内の老朽化している箇所については、優先順位を決めて順次整備を計画していく。休止している 1B エリアについては様々な用途に有効活用していく。

4. 様々な状態の利用者を見る覚悟とケア技術を習得する。

- ・施設入所を希望する大半の方々は、自宅での介護が大変になり、藁をもすがる思いで申し込んでくる。ケアや関りが難しい方々であることを理解し、「こんな人は無理！」ではなく、「どうすれば見ていけるか」といった専門職のプライド、覚悟、介護力をもって自分たちの役割を果たしていくことが肝要である。そのために、専門職としてプロ意識を持ち、施設内外での研修機会を活用して、技術面・接遇面でのレベルアップを図っていく。

5. ルール遵守・仕事への姿勢・助け合い

- ・法令の遵守、ハラスメント撲滅、虐待・身体拘束の禁止などを基本とする。引き続き、職場ルールの遵守（希望休、勤務変更、チーム異動など）、緊急事態等への協力（応援、勤務変更など）、上長の指示・命令などへの協力姿勢をもって、メンバーシップを発揮しチームケアを実践する。

6. 経費節減を図る

- ・昨年はおむつの使用量において一定の成果を上げることができた。今年度は、新たな給湯システム採用により灯油使用量の削減を図る。また、おむつ、薬代・備品・消耗品等については、引き続き節減に努める。

7. 地域貢献事業を行う

- ・昨年の介護報酬改定により、地域貢献活動が包括化されたことに伴い、地域交流に止まらず、法人が有する人的・物的資源を地域で生かせるように、実施計画に沿って具体的に貢献活動を実施していく。

社会福祉法人浅間福祉会『法人文化』

法人理念

- 一. 当法人は、地域の方々の幸せに貢献いたします
- 二. 当法人は、利用者の方々の幸せに貢献いたします
- 三. 当法人は、職員の幸せに貢献します

五心

- 一. 感謝 ありがとうございますの心
- 二. 使命 守る心
- 三. 忍耐 耐え忍ぶ心
- 四. 誇り プロの心
- 五. 利他 相手を想う心

行動指針

- 一. 幸せを願うこと
- 二. 努力し、成長すること
- 三. 誠実に生きること
- 四. 人に優しくあること
- 五. できる奉仕をすること